

キラリ わたしの学校

～表現する力を育てる～

小野小学校では、どの学級でも日々の授業において、積極的に話し合い活動を取り入れています。さらに、一人一人がじっくり考えをまとめたり発言したりする時間を確保することや、さまざまな教育活動への取り組みを通して、児童たちの表現する力を高めています。

国語の授業で行われる校内朗読大会では、代表に選ばれるために児童一人一人が一生懸命練習します。物語の文章を、登場人物の気持ちや場面の様子が伝わるように心を込めて読むことで、思いを言葉で伝える表現力を育てます。県大会に出場した児童は「場面ごとに声の表情を変えたり、間の取り方を練習したりした」と話し、「本番では心臓の脈の速さ

小野小学校

問い合わせ 学校教育課 ☎⑤8212
小野小学校 ☎②2546



↑真剣なまなざしで朗読の練習をする児童たち。代表に選ばれれば昼の放送で披露したり県大会へ出場したりします。

に併せて、読むスピードが速くならないようにゆっくり読むよう気を付けた」と振り返ります。

運動会に向けた体育の授業では、日々練習を重ね、演技を仲間とともに磨き上げることで集団としての表現力を高めています。組み立て体操を披露した児童は「みんなで心をつなげて大きな技を成功させた。成功できてとてもうれしかった」と達成感をにじませます。

また合唱部では、曲に合った表情や声を表現する練習を続けています。部長を務める児童は「最近の練習ではダンスを取り入れている。体全体を使って歌うことで表現する力が付いた」と実感しています。



Name
根岸優奈さん 塚越羽亜人くん 立石さよりさん

男女の人権

～共に輝く社会の実現を目指して～

人権を考へる

問い合わせ 生涯学習課 ☎②6888
自治交流課 ☎④2211



「男女共同参画社会」

男女共同参画とは、性別に関係なく、誰もが自分の能力や個性を發揮できるようにすることです。また、そのような社会を男女共同参画社会といえます。

「男女平等って、そんなの当たり前」と思う人もいるかもしれませんが、現実には、性別によってできることやできないこと、向き不向きなどを決め付けて、その人の生き方や可能性を狭めてしまっていることがあります。一人一人がお互いを尊重し、個性と能力を十分に發揮することができる社会の実現を目指し、男女が協力して主体的に行動していくことが重要です。

家庭では

「これは男性がすること、あれは女性がすること」というような思い込みや、性別による役割分担意識が身近にありませんか。そのような考え方が、男性も女性もそれぞれの生き方を窮屈なものにして

しまっているのではないでしょう。当たり前と思っていることを見直して、お互いの個性や能力を認め合うことが大切です。

また、夫婦間のDV、子どもや高齢者への虐待(殴る蹴るなど身体的な暴力、言葉の暴力、無視などの精神的な暴力)など、あらゆる暴力を無くしていくことが必要です。

地域では

ボランティア活動や生涯学習などの地域活動は、男性よりも女性の方が積極的に参加している傾向があります。しかし、自治会長などの役割に就くのは男性がほとんどです。男性も女性も積極的に地域活動に参加し、共にリーダーとして活躍できる地域社会を目指しましょう。

職場では

性別による差別がなく、個人の意欲や能力を十分に發揮できる環境をつくり、企画や方針決定の場にも男女が対等

に参画できる職場環境づくりが大事です。

ワーク・ライフ・バランス

「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」とは、仕事や家庭生活、個人の自己啓発など、さまざまなライフスタイルに応じた生き方を選択できることをいいます。このような生き方をするにより、男女とも大きなメリットを得ることができ、人生が豊かなものになります。

自分らしく生きる

一人一人が幸せな社会を築くためには、性別にかかわらず、全ての人の人権が尊重され、自分の意思と責任で社会に参画し、支え合っているかなければなりません。そのためには一人一人が、日頃当たり前だと思っていることをもう一度見つめ直すことが重要です。あなたにとって輝く人生、そして素晴らしいワーク＆ライフを実現させるための第一歩を踏み出してみませんか。

welcome to library

本との出会い

図書館司書がセレクトした新刊情報

開館時間 午前9時～午後8時(土・日曜日、祝日は午後5時まで)
休館日 月曜日
問い合わせ 藤岡市立図書館 ☎②1669

「国境なき医師団」を見に行く



著者▷いとう せいこう
生きることは難しい。けれど人間には仲間がいる。大地震後のハイチで、ギリシャの難民キャンプで、マニラのスラムで。日本の小説家がとらえた、世界のリアルと人間の希望。

いのち



著者▷瀬戸内 寂聴
ガンと心臓病に襲われ、老いに直面した私。脳裏によみがえるのは、作家人生で出会った男たちと筆を競った友の死に様。小説への愛と修羅を生き抜いた女の鮮烈ないのちを描く。

もう一杯だけ飲んで帰ろう。



著者▷角田 光代・河野 文洋
近所の居酒屋、旅先の味、深夜のパーティーの後、家でもおかわり。人と飲むのが大好きな夫婦が、一緒に酒を飲んだある日ある時のことを、それぞれがつづった酒飲みエッセイ。